

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒一人ひとりの個性を伸ばし、グローバルな視点を持って高い志をはぐくみ、主体的に生きようとする「人生の物語を編める生徒」を育てる学校

- (1) 生徒の高い志をはぐくみ、希望する進路実現のための学力を育てる学校
- (2) 世界的な視野を持ち、多様な文化・価値観を持った人々を理解し、協働できる生徒を育てる学校
- (3) コミュニケーション力を身につけ、自分の言葉で自分の考えを表現できる生徒を育てる学校
- (4) 校訓である「自他敬愛」の心をはぐくみ、互いに支え励ましながら成長できる生徒を育てる学校
- (5) 地域に信頼され愛される学校の取組みを通して、社会的貢献ができる生徒を育てる学校

2 中期的目標

1 基礎学力を充実させ、高い志をはぐくみ、すべての生徒の第一志望進路の実現を図る

- (1) 普通科専門コース制の特色を生かした教育課程を編成し、生徒の学習意欲の向上を図る。
 - ア コース制の充実を図り、3年間を見通した学習指導及び進路指導計画を構築する。
 - ※ 専門コースにおける希望する進路の実現達成率を R04 年度には 85%以上にする (R01: 92%←H30: 67%←H29: 62%)。
 - ※R01 年度は入学定員厳格化で志望校を下げる傾向があり数値が上がった。
 - イ 進路行事を積極的に展開し、進路に関する意識向上と日々の学習意欲の向上を図る。
 - ※ 学校教育自己診断における「進路行事が進路決定に役立つ」(生徒)の肯定率(R01 年度 75%)を R04 年度には 85%以上にする (R01: 85%←H30: 80%←H29: 68%)。
 - エ 「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を重視した授業改善に取り組むとともに、希望する進路を切り拓く学力を育成する。
 - ア 生徒による授業評価の活用。東百舌鳥 Style (授業の「めあて」・生徒の活動場面 (グループワーク等の協調学習など)・「振り返」を取り入れたアクティブ・ラーニング型授業)を全教科で実施し、授業力向上を図る。※「東百舌鳥 Style」の取組率(R01 年度 95%)。
 - イ 学力生活実態調査・基礎学力調査等を分析・活用し、生徒の希望する進路実現に相応しい学力養成に努める。
 - ※ 学校教育自己診断における「授業の内容をわかりやすく工夫」(生徒)の肯定率(R01 年度 64%)を R04 年度には 75%以上にする (R01: 64%←H30: 68%←H29: 62%)。
- (3) ICT 環境を学習及び教員の校務の効率化のツールとして最大限活用する。
 - ア ICT 機器を活用した授業の実施を推進。
 - ※ 学校教育自己診断における「授業で ICT 活用に取り組んでいる」(生徒)の肯定率 (R01 年度 87%) 90%超を維持する (R01: 87%←H30: 93%←H29: 90%)。
 - イ ICT 機器の活用により校務の効率化を図り、生徒と向き合う時間を確保する。
 - ※ ストレスチェックによる「健康総合リスク」の値を、府立学校平均以下の高水準を維持する (R01: 84←H30: 84←H29: 96)。
- (4) 個別指導の充実と自己学習の支援
 - ア 支援の必要な生徒実態を把握し、教職員の共通理解を促進し、支援の充実を図る。
 - イ 進学及び授業補充講習を実施するとともに、自学自習のための支援体制を整備する。
 - ※ 学校教育自己診断における「年度当初より自ら進んで学習するようになった」(生徒)の肯定率 (R01 年度 63%)を R04 年度には 70%以上にする (R01: 63%←H30: 59%←H29: 56%)。

2 あらゆる教育活動で「21 世紀型スキル」発現の機会をつくり、生徒の主体性・資質・能力を育成する。

- (1) 学校における教育活動のあらゆる面で、生徒の言語活動の充実を図る。
 - ア ICT 活用及び協調学習 (ペアワークやグループワーク) を通して、プレゼンテーション力と問題解決能力を育成する。
 - ※「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」(生徒)の肯定率 80%以上 (R01: 78 %←H30: 72%)。 ※R01 年度、2 年生では 88%、H30 年度より調査。
- (2) 多様性への理解をはぐくむ。
 - ア 英語コミュニケーション能力の向上。大阪府立大学留学生との交流等を企画・立案・実施する。
 - ※ 実用英語検定受験者数 (R01: 123 名←H30: 157) 及び 2 級・準 2 級合格者数 (R01: 12 名←H30: 11 名) を R04 年度にはそれぞれ 200 名及び 25 名以上にする。
- (3) 国研研究指定校事業「学びに向かう探究学習 (総合的な探究の時間)」の研究開発及び実践を引き続き推進するとともに全国に成果を発信する。
 - ア 協働で探究のプロセスを繰り返し設定することで、ピア・マインドセットを育みながら、生徒一人ひとりが課題に関連し自己の在り方生き方を真剣に考える学習活動を展開し、各教科等で身に付けた資質・能力等を活用し、主体的・対話的で深い学びの実現につなげる。
 - イ 「関連単元配列表」「カリキュラムマップ」「3つのポリシー」を有効活用し、更なるカリキュラムマネジメントの充実と新教育課程編成をめざし、成果の公表を行う。
 - ウ 「探究学習」における更なる形成的評価方法の研究・開発に取り組む、今後とも継続して生徒一人ひとりの多様な学びを形成的に評価できるよう研究・開発を進めていく。

3 「自他敬愛」の心をはぐくみ、豊かな人間性を涵養する学校づくり

- (1) 「自他敬愛 (自らに誇りをもち、自らを大切に。他者を尊重し、他者を思いやる)」の心を持ったグローバルリーダーを育成する。
 - ア 相手と協力し合い、友好的パートナーシップを築くことで、より「自他敬愛」の精神を育てる。「ピア・サポート」活動を一層、拡大充実させる。
- (2) 規範意識の向上 (善悪の判断ができる人材及び感謝報恩の心をもった人材を育成)。
 - ア 毎朝の立ち番指導及び通学指導を継続し、通学マナー及びあいさつ運動の向上を図るとともに、頭髪・服装・遅刻指導を推進する。
 - イ 急速に普及しているスマートフォンなどの SNS 上の人権侵害防止についての取組みを推進する。
 - ※ 学校教育自己診断による「生活規律・学習規律の指導」(生徒)の肯定率 (R01 年度 87%)を R04 年度には 90%以上にする (R01: 87%←H30: 86%←H29: 86%)。
- (3) 自主的活動ができる生徒集団の育成。
 - ア 生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動 (生徒会行事・生徒会活動・部活動) できるよう学校全体で支援していく。
 - ※ 部活動加入率 (R01 年度 59%)を R04 年度には 67%以上にする (R01: 59%←H30: 60%←H29: 56%)。
 - イ 文化・芸術活動の振興、図書館利用・読書活動の充実、生徒による校内外の美化活動を推進する。
- (4) 安全で安心な学びの場づくりの推進。
 - ア 実効性のある「危機管理マニュアル」の作成、実践的な避難訓練を通じて、危機管理体制の充実・防災教育の取組みを図る。
 - イ 食物アレルギー対応委員会を中心に、校内研修等を通じて、食物アレルギー等に係る事故防止に努める。

4 教職員の資質向上と学校の組織力向上に向けた取組み

- (1) 教科会議・コース会議の充実・相互授業見学の充実・経験年数の少ない教員の研修の充実、個々の教職員の経験年数や適性に応じた役割分担による学校組織力の向上
- (2) 「働き方改革」を推進し、教職員の安全及び健康の確保、職場環境の改善を図る。
- (3) 開かれた学校づくりを推進し、生徒・保護者に信頼され、地域中学生に憧れられる学校をめざす。
 - ア 個人情報の適正管理・学校会計事務の適正化に努める。
 - イ 学校説明会を積極的に実施し、本校の特色ある取組みをアピールする。ブログ及び学校クラウドサービスを活用して、最新の学校情報を発信する。
 - ウ 地域と連携した事業の展開を図り、地域とともに成長する学校をめざす。
 - ※ 教育自己診断による「ホームページは充実している」(保護者)の肯定率 (R01 年度 78%)を R04 年度には 85%以上にする (R01: 78%←H30: 74%←H29: 76%)。
 - ※ 教育自己診断による「クラウドサービスによる連絡は役に立っている」肯定率(保護者)の肯定率(R01 年度 83%)を R04 年度には 90%以上にする (R01: 83%←H30: 81%←H29: 87%)。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【生徒・保護者等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校に行くのが楽しい」の肯定回答について、1年生が昨年度より6ポイント減少した。入学早々の臨時休校、感染防止対策として学校行事の一部中止の影響もあるかと思われる。 「授業内容」「ICT活用」に関する設問の生徒の肯定回答は、どれも昨年度より4～12ポイント上昇している。これは、教員の相互授業見学会の充実や研修会の積極的な実施が功を奏していると考えられる。教員側の研修等に対する肯定回答も91%と高いものであった。 今年度、特に肯定回答率が大幅に減少したのは、「読書活動に力を入れている」という項目であった。1年生に関しては昨年度比35ポイント減、全体で13ポイントの減となった。学校図書館の使用についてのオリエンテーションも十分できなかったことが要因の1つではないか。 「生活指導」について、自由記述には「厳しすぎる」という生徒からの意見もたくさん見られるが、保護者からは、「もっと厳しく」という意見を複数いただいた。生徒へは社会人としてのマナーを身に付けて卒業してもらいたいという学校の思いを丁寧に説明したい。 「ホームページの充実」について、保護者からの肯定的な回答が昨年度比9ポイント減となったが、反面、クラウドサービスによる保護者連絡が役立っているという肯定回答率は92%と高く、昨年度比9%増となった。メール配信サービスがある分、ホームページの利用は少ないのかもしれない。メール配信をさらに充実させたい。 <p>【教職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「校長のリーダーシップ」について肯定的回答率は高かったが、一方「学校運営に教職員の意見が反映されている」という肯定回答が59%と低かった。トップダウンとボトムアップのバランスを検証し、教職員が丸一となって「めざす学校像」の実現に取り組める組織をめざしたい。 	<p>○第1回（7月11日）</p> <p><R2年度の学校経営計画について></p> <ul style="list-style-type: none"> 異議なし。 「関連単元配列表」の有効活用については、教科間の連携を進めてほしい。 <p><臨時休校について></p> <ul style="list-style-type: none"> 新年度早々の休校や分散登校は生徒にとって、大きなストレスであった。 「学校行事」については、体験する機会の喪失にならないよう、生徒主体で取り組んでほしい。 <p>○第2回（11月11日）</p> <p><授業観察を終えて></p> <ul style="list-style-type: none"> スマホ等を活用してお互い相談できる環境は素晴らしい。 ICTが教員に普及する段階が終わり、新たな段階に進んでいるのがよくわかった。 ICTの活用だけでなく、達筆な字にもその先生の個性がよく見え、生徒の見本・目標となる。また、先生の声の調子で生徒のスイッチが入るタイミングもある。これからも対面授業を大切にしたい。 <p>○第3回（2月3日）</p> <p><R2年度の学校経営評価（案）、R3年度学校経営計画（案）について></p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員が頑張っていることは十分分かる。新型コロナウイルス感染症に振り回されたり、数値目標を達成したかどうかに一喜一憂したりするべきではない。△と評価されている項目について○と判断してよいものもある。 総合的な探究の時間の生徒発表は「誇り」につながり、広がり、育ち、根になっている。他校に先駆けた学び合いは、子どもの成長を促し、教育の本質を捉えている。 教員研修から自主勉強会に発展していることは評価したい。 保健部からの報告にあった「避難訓練」については、一分掌ではなく学校全体の問題。避難経路についての見直しについて次年度に送るのではなく早急に解決すべき。（既に見直し案を職員会議で提示し次年度に向けて共有済み。） 授業見学については、来校しやすい環境を整えてほしい。PTAも巻き込んだ取組みを考えてもらえたらと思う。また、教職員の頑張りをもっと保護者に知らせる工夫をしてほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 基礎学力を充実させ、高い志をばぐみ、すべての生徒の第一志望の実現を図る</p>	<p>(1) 普通科専門コース制の特色を生かし、生徒の学習意欲の向上を図る。 ア コース制の充実を図り、3年間を見通した学習指導及び進路指導計画を構築する。 イ 進路行事の積極的展開</p> <p>(2) 授業改善と希望する進路を切り拓く学力の育成 ア 授業アンケート結果等の活用、授業の「めあて」「振り返り」の全教科実施 イ 進路実現に相応しい学力の養成</p> <p>(3) ICT環境の活用 ア 授業実施の推進 イ 公務の効率化</p> <p>(4) 個別指導の充実と自己学習の支援 ア 支援の必要な生徒実態の把握 イ 自学自習のための支援体制の整備</p>	<p>(1) ア・学習指導室を中心に、3年間を見通した学習指導及び進路指導計画を構築する。 ・コース制の充実（コース会議・ガイダンス・相談会・講演会・フィールドワーク等） イ・学習指導室を中心に、3年間を見据えたキャリア教育の充実を図る。 ・大学見学や先輩の話を開く会、進路講演会等を通して、生徒が自己の将来像を描き、主体的に学ぶ態度を育てる。</p> <p>(2) ア・授業アンケート結果等を参考に、自己・教科の振り返りを行い、授業改善に努める。 ・授業の「めあて」と「振り返り」を全教科で実施し、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善を推進する。 ・外部講師による講習会の参加、校内外の優れた実践事例の研修等を通じ、指導法を研究し、共有する。 イ・志望校検討会・コース選択検討会等を通じ、効果的な進路指導を行う。</p> <p>(3) ア・ICT機器を活用した授業の実施を推進 イ・ICT機器を活用して校務の効率化を図る</p> <p>(4) ア・高校生活支援カードを活用し、適切な指導・支援の充実を図る。 ・教育相談・支援委員会による教育相談体制の充実 ・外部講師を招き人権諸課題の理解を深める。 イ・全学年を通じて「ひがも塾」、早朝、放課後、土曜、夏季、大学入学共通テスト対策講習等に取組み、生徒の学力向上に努める。大阪府立大学等ボランティアセンターとの連携。</p>	<p>(1) ア・専門コースにおける希望する進路の実現達成率80%以上 (R01: 92%←H30: 67%) イ・進路行事に対する肯定率82%以上 (R01: 85%←H30: 80%) ・進路決定の際の情報提供に対する肯定率87%以上 (R01: 85%←H30: 84%)</p> <p>(2) ア・授業満足度72%以上 (R01: 64%←H30: 68%) ・「東百舌鳥Style」の取組比率90%超の維持 (R01: 95%←H30: 90%) イ・すべての外部模試の結果報告会及び3年生の志望校検討会を実施する。 ・1、2年生のコース選択検討会を実施する。</p> <p>(3) アイ・「授業でICT活用に取組んでいる」(生徒)の肯定率95%以上の維持。 (R01: 87%←H30: 93%) ・ICT機器を使った授業での利用率95%超の維持 (R01: 98%←H30: 96%) ・ICT機器を使った研究授業を年20回以上、研修会を年15回以上開催 (R01: 21回/12回←H30: 23回/10回)</p> <p>(4) ア・共通理解のための研修を年2回実施 ・「教育相談」(生徒/保護者)の肯定率74%/82%以上 (R01: 71%/79%←H30: 69%/78%) イ・講習、補習の受講者数のべ500人以上 (R01: 472人←H30: 562人) ・「年度当初より自ら進んで学習するようになった」の肯定率70%以上 (R01: 63%←H30: 59%)</p>	<p>(1) ア・3年生の進路実現達成率は97%と高い肯定回答率となった。(◎) イ・進路行事が進路決定に役立ったという回答は81%であったが、ウイルス感染症の影響で見学会等を中止せざるを得ない中、生徒に寄り添った進路指導を丁寧に行った。(○) ・情報提供に対する肯定率は92%と高かった。(◎)</p> <p>(2) ア・授業満足度は75%であった。(◎) ・「東百舌鳥Style」取組比率は93%(◎) イ・模試結果報告会&志望校検討会、コース選択検討会についてすべて実施し、個別指導に十分活用できた。(○)</p> <p>(3) アイ・休校等で対面授業でのICT活用がままならなかった期間が長く続いたが、オンライン学習の体制を整えた結果、生徒の肯定回答率93%まで上昇した。(○) ・教員の肯定回答率98%(◎) ・研究授業週間として年間21日間設定研修会は、オンライン学習研修会や個別の研修会も含め25回実施した。(◎)</p> <p>(4) ア・教職員研修を2回実施し教育相談に関して理解を深めた。(○) ・「教育相談」に関する肯定率は、生徒87%保護者84%であった。(◎) イ・ウイルス感染症の影響により例年通りの実施が困難だった。特に夏期に実施できず、参加者は延べ125人とどまった。(一) ・自学自習に対する肯定率は全体で68%、3年生に関しては72%であった。(○)</p>

府立東百舌鳥高等学校

<p>2 「21世紀型スキル」発現の機会をつくり、生徒の主体性・資質・能力を育成する</p>	<p>(1)言語活動の充実 ア プレゼンテーション力・問題解決能力の育成 (2)多様性への理解 ア 英語コミュニケーション能力の向上。大阪府立大学留学生との交流等 (3)「学びに向かう探究学習（総合的な探究の時間）」の推進 ア 「探究学習」を主体的・対話的で深い学びの実現につなげる。 イ 「関連単元配列表」「カリキュラムマップ」「3つのポリシー」の有効活用 ウ 「探究学習」における形成的評価方法の研究・開発</p>	<p>(1) ア・授業で、プレゼンテーション力・問題解決能力を発現する機会をつくる。 (2) ア・実用英語検定・英語学力調査の受験を奨励する。 ・大阪府立大学留学生との交流等を企画・立案・実施する。 (3) トータルプラン推進室を中心に、外部講師による研修会、先進校視察等により「学びに向かう探究学習（総合的な探究の時間）」の研究開発及び実践を引き続き推進するとともに全国に成果を発信する。大学生・院生等のTAも活用する。 ア 協働で探究のプロセスを繰り返し設定することで、生徒一人ひとりが自己の在り方生き方を真剣に考える学習活動を展開し、各教科等で身に付けた資質・能力等を活用し、主体的・対話的で深い学びの実現につなげる。 イ 「関連単元配列表」「カリキュラムマップ」「3つのポリシー」を有効活用し、更なるカリキュラムマネジメントの充実と新教育課程編成をめざし、成果の公表を行う。 ウ 「探究学習」における更なる形成的評価方法の研究・開発に取組み、今後とも継続して生徒一人ひとりの多様な学びを形成的に評価できるよう研究・開発を進めていく。</p>	<p>(1) ア・「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」（生徒）の肯定率81%以上 (R01: 78 %←H30: 72%) (2) ア・英検受験者数150人以上、英検2級・準2級合格者15人以上 (R01: 123人・12人←H30: 157人・11人) ・Global Assessment 調査・Interview Test 調査を実施し、語学研修の充実を、生徒の変容により測定する。 ・学年単位で留学生との交流を行う。 (3) ・「学びに向かう探究学習（総合的な探究の時間）」の研究開発及び実践を引き続き推進するとともに全国に向け成果発表会を実施する。関連する校内研修を2回実施する。 ・「探究学習」の学びを教科にも取り入れ、教科横断的な学びを複数教科で実施する。 ・カリキュラムマネジメントの実践例として、「関連単元配列表」「カリキュラムマップ」「3つのポリシー」を有効活用した新教育課程を編成し、成果の公表を行う。</p>	<p>(1) ア・「自分の考えをまとめたり発表したりする機会」に対する肯定率は88%であったが、特に3年生が97%と高かった。(◎) (2) ア・英検受験者203人、準2級以上合格者48人モチベーションを保つのが難しい状況で生徒の意識を高めることができた。(◎) ・今年度の語学研修は実施できておらず、次年度も難しいと思われる。(一) ・ウイルス感染症の影響により、実施できず。(一) (3) ・探究学習に関する研修を2回実施し、成果発表会を行った。なお、その成果をブログで発信した。(○) ・探究学習の学びを情報の教科に取り入れ、実施したが、複数教科で実施には至らなかった。(△) ・「関連単元配列表」「3つのポリシー」を基盤に新教育課程を編成した。(○)</p>
<p>3 「自他敬愛」の心をはぐくみ、豊かな人間性を涵養する学校づくり</p>	<p>(1)「自他敬愛」の心を持ったグローバルリーダーの育成 ア 「自他敬愛」の精神の育成。「ピア・サポート」活動の拡大充実 (2)規範意識の向上 ア 通学マナー・あいさつ運動の向上 頭髪・服装・遅刻指導の推進 イ スマホに関する指導 (3)自主的活動ができる生徒集団の育成 ア 生徒の主体的活動を学校全体で支援。 イ 生徒による校内外美化活動の推進。 (4)安全で安心な学びの場づくりの推進。 ア 危機管理体制の充実 イ 防災教育の取組み イ 食物アレルギー等に係る事故防止</p>	<p>(1) ア・「ピア・サポート」で培った、関係づくりを生かし、多文化共生の取組みを推進する。 (2) ア・毎朝の立ち番指導及び通学マナー指導の継続。 イ・1年生に対して、「スマートフォンによる人権侵害」についての取組を推進する。 ・外部の人材派遣による人権研修の開催 (3) ア・生徒会活動を通じて、生徒の主体的活動を支援する。 ・リーダー研修、ピア・サポート研修の充実 ・生徒(生徒会役員・部活動部長)が運営する学校説明会。 ・中学生招待大会の実施(バスケットボール・サッカー・バレー) ・部活動の活性化、全国大会出場に向けた支援 ・生徒会が運営する部活動発表の機会や場の設定。 ・ピリオパトル等の読書活動の取組みを推進する。 イ・校内及び地域美化活動の推進。 (4) ア ハザードマップや近隣の避難場所などの情報も収集して、万一の場合の自校の避難場所を想定し、危機管理マニュアルや大規模災害時初期対応マニュアルに明記するとともに、実効性のあるマニュアルとなるよう点検・見直しを行い、災害に備えた危機管理体制の確立を図る。 イ 食物アレルギーの事故は、いつ、どこでも起きるものだと思定し、すべての教職員が緊急時に対応できるよう、校内研修等の充実を図る。</p>	<p>(1) ア・「学校に行くのが楽しい」（生徒/保護者）の肯定率85%以上 (R01: 83/81%←H30: 80/78%) (2) ア・通学マナー指導を1週間単位で年5回実施 ・遅刻総数前年度比10%減 (R01: 3440回←H30: 3296回) (3) ア・各行事後のアンケートにおける満足度93%以上 (R01: 91 %←H30: 82 %) ・リーダー研修年4回、ピア・サポート研修年10回実施 ・中学生招待「東百舌鳥杯」大会を、男女バスケットボール、女子バレーボール、サッカーでのべ28校の参加で実施する。 (R01: 26校←H30: 27校) ・新入生の部活動加入率80%以上 (R01: 75 %←H30: 79%) ・生徒向け貸出冊数の1割増加 (R01: 1060冊←H30: 1008冊) イ・毎週、生徒美化委員による校内清掃点検活動を行う。 (4) ア 「危機管理マニュアル」を教職員のみならず、地域の自治会長と共有し、災害に備えた危機連絡体制を確立する。 イ 食物アレルギー対応委員会を中心に、校内研修を年2回実施し、食物アレルギー等に係る事故防止に努める。</p>	<p>(1) ア「学校に行くのが楽しい」の肯定回答率は生徒が81%、保護者が84%であった。休校等の影響を受けながら80%以上を維持できたことは評価に値する。(○) (2) ア・通学マナー指導を年3回実施(○) 休校期間及び行事予定の変更によって2回分実施できなかった。 ・今年度の遅刻総数は3,364件(△) 昨年度比8ポイント減であるが、休校期間があったことを考えると、大きな課題は残る。 (3) ア 諸行事を中止せざるを得なかった中、体育祭を実施した結果、その満足度は96%であった。行事全体の満足度は90%であった。(○) ・ウイルス感染症の影響を受け、リーダー研修2回/ピア・サポート研修5回の実施にとどまった。(一) ・ウイルス感染症の影響により、中学生を招待する大会はすべて中止となった。(一) ・新入生の部活動加入率は51%と大幅に減少した。ウイルス感染症の影響を受けたと考える。(一) ・図書貸出冊数は休校等の影響もあり603冊。ウイルス感染症のため、年度初めに1年生へのオリエンテーションができていないことも影響したようだ。(一) イ ウイルス感染症防止の観点からも月1回の活動にとどまった。(一) ただし、活動頻度については、次年度見直しを行う予定。 (4) ア 「危機管理マニュアル」については見直しを行い、自治会長と共有した。(○) イ各学年において年間3回研修を行った。(◎)</p>
<p>4 教職員の資質向上と学校の組織力向上に向けた取組み</p>	<p>(1) 教科会議・コース会議相互授業見学の充実、経験年数の少ない教員の研修の充実、学校組織力の向上。 (2) 「働き方改革」を推進し、教職員の安全及び健康の確保、職場環境の改善 (3)開かれた学校づくり ア 個人情報の適正な管理・学校会計事務の適正化 イ 学校説明会の充実 ブログ・クラウドサービスによる学校情報の発信 ウ 地域と連携した事業の展開、地域とともに成長する学校づくり</p>	<p>(1) 教科会議・コース会議を授業力向上及び生徒の希望する進路実現のための研修の場として位置付けるとともに、積極的に研究授業を行うことで、教科としての授業力向上を図る。 ・テーマを立てた相互授業見学や外部の教員研修・講習会に参加する等、教員の授業力向上を図る。 ・校内初任者研修を週1回行うことで、教員としての資質・能力をはぐくみ、チーム東百舌鳥で初任者を支える。 ・個々の教職員の経験年数や適性に応じた役割分担を行うことで、チーム東百舌鳥で学校運営を推進する。 (2)安全衛生委員会と連携し、教職員の安全及び健康の保持、ならびに快適な職場環境の整備・促進に努める。 (3)ア 規則・マニュアルに基づき適正に処理し、生徒購入物品の代金引換や後払いの徹底に努める。 イ・オープンスクール・体験入学の充実を図る。校長室ブログ・進路ブログ・生徒会ブログ・部活動ブログ・図書館ブログ等の積極的な更新を推進する。 ・各学年の様子をクラウドサービスを活用し効果的に発信する。 ウ・地域と連携した事業を展開する。 ・「子育てひろば・東もず」との連携を一層進める。 ・地域の方を対象に「歴史探訪」を実施する。</p>	<p>(1)各教科において、指導方法の工夫・改善に努めている、の肯定率90%以上 (R01: 89 %←H30: 82%) ・全教科で研究授業年1回以上を維持。 (R01: 1回) ・相互授業見学教員一人当たり平均3回以上。 (R01: 3回) ・校内初任研を週1回実施。 ・「適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的取組める環境にある」の肯定的評価75%以上 (R01: 73 %←H30: 67%) (2) ストレスチェックによる「健康総合リスク」の値を、府立学校平均以下を高水準で維持 (R01: 84←H30: 84) ・気軽に相談しあえる人間関係できているの肯定率85%以上 (R01: 83%←H30: 79%) (3) ア・学校会計事務の適正化に係る自己診断 イ・オープンスクール・体験入学等の参加者数の増加 (R01: のべ2027人←H30: のべ1603人) ・入学生調査でオープンスクール・体験入学の参加経験者の割合を68%以上 (R01: 65 %←H30: 63%) ・各ブログの内容を充実させ、更新頻度をあげる ・「ホームページは充実している」（保護者）の肯定率80%以上 (R01: 78 %←H30: 74%) ・「クラウドサービスによる連絡は役に立っている」肯定率(保護者)の肯定率85%以上 (R01: 83 %←H30: 81%) ウ・地域の行事等交流参加生徒のべ500人以上 (R01: のべ488人)</p>	<p>(1)各教科について、指導方法の工夫や改善に努めているという教員の率は91%であった。(◎) ・全教科において、研究授業を年1回以上実施し、授業力向上に繋がった。(○) ・各教員が年間3回以上見学できる機会を設け、授業改善に向け意見交換を行った。(○) ・校内初任者研修について、毎週時間割に組み込むことで計画的に実施した。(○) ・教職員の肯定回答率は59%と大幅に減少した。次年度の人事や分掌の配置に関して改善に向けて検証をしたい。(△) (2)「健康総合リスク」の値は94と数字的には増加したが、長期休業を余儀なくされ、オンライン学習実施等新たな業務が課された中で、平均以下の値を維持できた。(○) ・人間関係についての肯定率は82%と昨年並みの結果で目標値には至らなかった。(△) →(運営協議会で、十分高い肯定率だご意見をいただいた。(○) (3) ア・会計事務は適正に行った。(○) イ・ウイルス感染症の影響で実施回数は減らさざるを得なかった。今年度計画した説明会への申し込み人数の合計は1,063人であった。昨年度の同時期の説明会参加者と比較すると400人増となった。(◎) ・入学生のうちオープンスクール等参加経験のある者の割合は65%であった。(△) →(運営協議会で、高い割合だご意見をいただいた。(○) ・ホームページの更新頻度は高くなり、保護者の肯定的回答率は69%にとどまった。ただ、本校では保護者に対しクラウドサービスにより各種連絡を行っており、保護者のホームページに対するニーズは低いと思われる。(△) ・クラウドサービスについての肯定回答率は91%であり、非常時の連絡に有効であったと思われる。(◎) ウ ウイルス感染症の影響で今年度地域の行事はすべて中止となり、参加できなかった。(一)</p>